

# 静岡・清水両地域の発展に全力



静岡商工会議所  
会頭 松浦康男

## ごあいさつ

静岡商工会議所と清水商工会議所が新設合併し、会員数12,000名を誇る全国で10番目の規模となります。新「静岡商工会議所」が誕生したことは、ひとえに、県・市をはじめ、両商工会議所の役員・議員の皆様、そして何よりも両商工会議所の会員の皆様のご理解とご協力の賜物であり、ここに厚く御礼と感謝を申し上げます。

また、新商工会議所設立委員の皆様のご推挙により初代会頭に選任いただきましたことは、身に余る光栄であり、その責任の重さに身の引き締まる思いがいたします。会員の皆様のご期待に添うことができるよう、静岡・清水両地域の発展のため、全力を尽くしこの大任を果たして参りたいと存じます。振り返りますと、両商工会議所の合併は平成15年に旧静岡市・清水市が行政合併して以来の課題であり、今回の合併に

至る道のりは決して平坦なものであったとは申せません。

しかしながら、お互いの理解と尊重のもと幾多の困難を乗り越え合併を決定しました。とりわけ、終始一貫してこの静岡市を発展させたいという強い信念を持ち合併協議に取り組んでいただきました静岡・清水商工会議所合併協議特別委員会の委員の皆様には改めて深く敬意を表する次第でございます。

さて、これからの経済状況を考えますと右肩上がりの経済成長は望めず、厳しい経済環境が続くものと予想されます。地域経済においても雇用環境をはじめ景況感には改善が見られず先行き不透明感を払拭できない状況にあります。

こうした中、今回の両会議所の合併は、それぞれの地域の特性を生かし足りない部分をお互いに補い合い、地域経済の活性化に繋がる絶好の機会と捉えております。商業のまち静岡と港湾都市で物流・工業の盛んな清水との合併は、産業の幅を広げ、農工商連携など異業種連携での新たな可能性が拡がり、時代の要請に応えられるサービスを提供できるものと確信しております。

て参ります。

さらに、中長期的な観点から商工会議所事業全般にわたり事業仕分けを進めて参ります。新たに「中長期行動計画」を策定し、単年度主義や前例踏襲主義から脱却し、計画・実行・評価・改善のプロセスで事業が効果的にかつ効率的に行われているかを見直して参ります。

最後になりましたが、本年は合併初年度ということもあり、域内の交流と融和を図ることに配慮しながら、志を高く持ち、「合併して良かった」と会員の皆様に言われるよう質の高い会員サービスを提供して参りたいと存じます。

以上、新商工会議所の発足に向け、所信の一端を申し上げて参りましたが、どうか、会員の皆様におかれましては、今後とも引き続き「新・静岡商工会議所」の更なる発展と飛躍に向けご支援・ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶といたします。